

2019年3月期及び2020年3月期の業績説明



2019年4月24日



石塚硝子株式会社

ISHIZUKA GLASS Co., Ltd.

1. 2019年3月期決算内容

- 連結業績
- セグメント別売上高
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2020年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

連結業績ハイライト

- ✓ 増収・減益。ただし、各利益ともに業績予想値を上回る
- ✓ 売上高はプラスチック容器関連が主要ユーザー向けの販売が好調であったことにより増収
- ✓ 営業利益は原燃料価格の高騰などにより減益。経常利益は受取配当金の増加や支払利息の減少により増益であったが、親会社株主に帰属する当期純利益は特別損失の影響により減益
- ✓ 有利子負債は前期比▲5,370百万円の大規模削減（詳細はP.8参照）
 - 2019/3月期を最終年度とする中期経営計画の基本方針である、「営業利益率3%の安定的確保」及び「3年で30億円の有利子負債の削減」を達成

(単位：百万円)

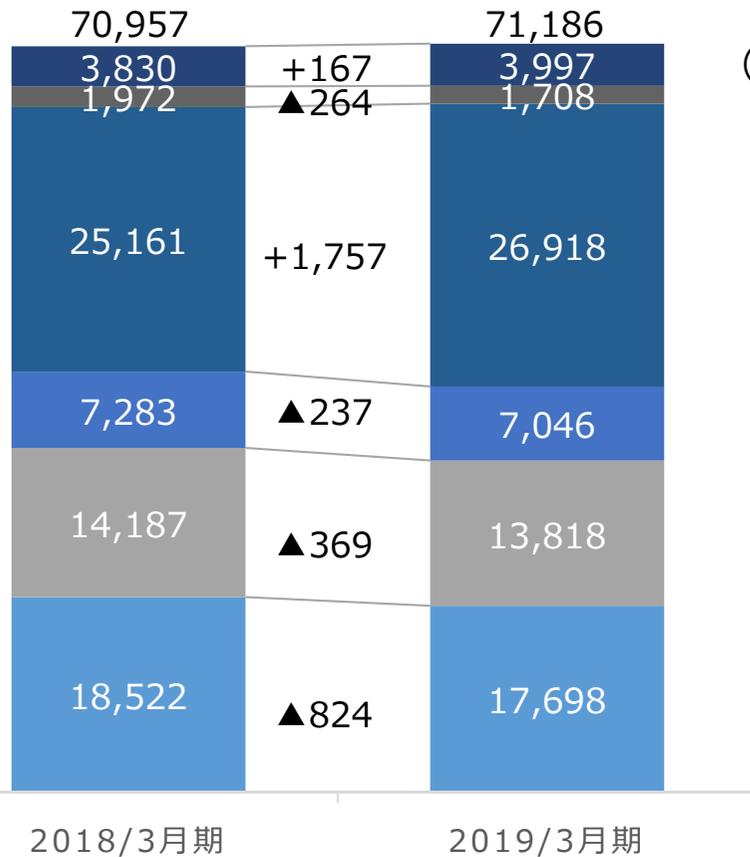
項目	2018/3月期 実績	2019/3月期 業績予想	2019/3月期 実績	対前期比		対業績予想比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	70,957	72,000	71,186	229	0.3%	▲813	▲1.1%
営業利益	2,582	2,300	2,355	▲226	▲8.8%	55	2.4%
営業利益率	3.6%	3.2%	3.3%	—	▲0.3%	—	0.1%
経常利益	1,998	1,900	2,144	145	7.3%	244	12.8%
当期純利益 ※	1,667	1,400	1,488	▲179	▲10.7%	88	6.3%
配当金 (円)	45	45	普通配当 45 記念配当 20	20	44.4%	20	44.4%

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

連結業績

売上高

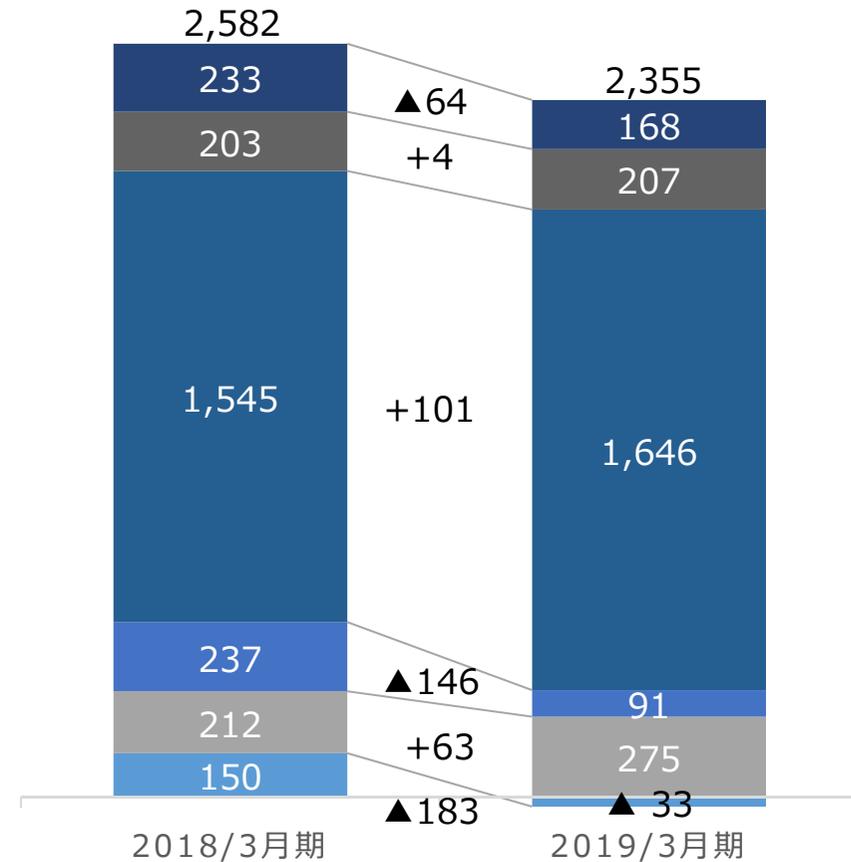
- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



(単位：百万円)

営業利益

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



(単位：百万円)

(注) 2019/3月期に鳴海製陶株式会社及び三重ナルミ株式会社は決算期を2月末から12月末に変更しており、ハウスウェア関連及び産業器材関連はこの影響を受けております。

セグメント別売上高

ガラスびん関連事業

売上高17,698百万円（前期比4.5%減）

- ✓ 食料・調味料びんの一部が他素材容器に移行したことにより出荷が減少
- ✓ 業務用ビール値上げ前の受注増加の反動によりビールびんの出荷が減少したことや清酒びんの需要も落ち込む



ハウスウェア関連事業

売上高13,818百万円（前期比2.6%減）

- ✓ ガラス食器は、アルコールメーカー向けの業務用品及び貯蔵びんの販売が好調に推移
- ✓ 陶磁器は、海外のエアライン向けの受注が増加したが、鳴海製陶(株)及び三重ナルミ(株)の決算期の変更により減収



セグメント別売上高

紙容器関連事業

売上高7,046百万円（前期比3.3%減）

- ✓ 主要ユーザーからの受注が落ち込み出荷が減少
- ✓ 一部ユーザーにおいて新形状容器への移行が進み出荷が伸び悩む



プラスチック容器関連事業

売上高26,918百万円（前期比7.0%増）

- ✓ 主要ユーザーへ向けの販売が好調に推移し、出荷が堅調
- ✓ 前期の7月に立ち上げた新ラインが順調に稼働し需要の増加に対応



セグメント別売上高

産業器材関連事業

売上高1,708百万円（前期比13.4%減）

- ✓ 鳴海製陶(株)の決算期の変更により減収。なお、当該影響を除くと概ね前期並み



その他事業

売上高3,997百万円（前期比4.4%増）

- ✓ 抗菌剤は、国内及び海外での販売が順調に拡大
- ✓ 金属キャップは医薬品向けの出荷が伸び悩む



連結貸借対照表

(単位：百万円)

連結貸借対照表の主な変動要因

流動資産 35,850 (前期比▲372) 現金及び預金▲3,186、その他+2,403 (未収金+2,428)、たな卸資産+782	流動負債 23,776 (前期比▲4,013) 有利子負債▲6,958、未払金+1,891、支払手形及び買掛金+1,253
固定資産 45,151 (前期比▲131) 有形固定資産+92、投資有価証券▲159	固定負債 29,833 (前期比+1,178) 有利子負債+1,588
繰延資産 205 (前期比+116) 社債発行費の増加	純資産 27,597 (前期比+2,447) 新株の発行及び自己株式の処分+1,122、利益剰余金+1,331
総資産合計 81,207 (前期比▲387)	負債及び純資産合計 81,207 (前期比▲387)

自己資本比率 30.4% (+3.0%)

～トピックス～

- ✓ 新株の発行、自己株式の処分及び利益剰余金の充実により自己資本比率は3.0%増の30.4%
- ✓ 中期経営計画の基本方針の一つである有利子負債の削減に取り組み、前期比▲5,370の削減
- ✓ プラスチック容器関連の設備投資に伴い、リースバックによる未収金並びに未払金が一時的に増加

連結キャッシュ・フロー

項目	2018/3月期 実績	2019/3月期 実績	増減
営業活動によるCF	6,954	6,162	▲792
税金等調整前当期純利益	2,052	1,738	▲313
減価償却費	4,512	4,226	▲285
運転資本の増減額（△は増加）※	865	737	▲128
その他	▲475	▲540	▲64
投資活動によるCF	▲4,861	▲2,674	2,187
有形固定資産の取得による支出	▲5,161	▲2,633	2,527
その他	299	▲40	▲340
財務活動によるCF	▲1,276	▲6,676	▲5,399
短期借入の増減額（△は減少）	▲365	▲6,177	▲5,812
長期借入・社債の発行による収入	3,456	4,948	1,492
長期借入の返済・社債の償還による支出	▲5,234	▲5,561	▲326
セール・アンド・リースバック取引による収入	2,103	—	▲2,103
リース債務の返済による支出	▲1,054	▲821	232
増資等による収入	—	1,122	1,122
その他	▲183	▲187	▲4
現金及び現金同等物	6,720	3,534	▲3,186

(単位：百万円)

※ 売上債権の増減額、たな卸資産の増減額及び仕入債務の増減額の合計

～トピックス～

- ✓ プラスチック容器関連の設備投資の支払は主に翌期以降であるため、投資活動によるCFは前期比+2,187
- ✓ 有利子負債の削減に取り組んだ結果、財務活動によるCFは前期比▲5,399

1. 2019年3月期決算内容

- 連結業績
- セグメント別売上高
- 連結財政状態
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2020年3月期業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

2020年3月期通期業績予想

- ✓ 売上高及び各利益ともに前期を大幅に上回る計画
 - P E Tボトル用プリフォーム成型設備の新ライン3本が本格的に稼働することにより大幅な増収を見込む
 - 原燃料価格は引き続き高止まりが予想されるが、グループを横断した機能強化を更に発展させ、製造工程の合理化及び抜本的な業務の見直しを進める
- ✓ 売上高及び各利益の全ての指標において過去最高を見込む

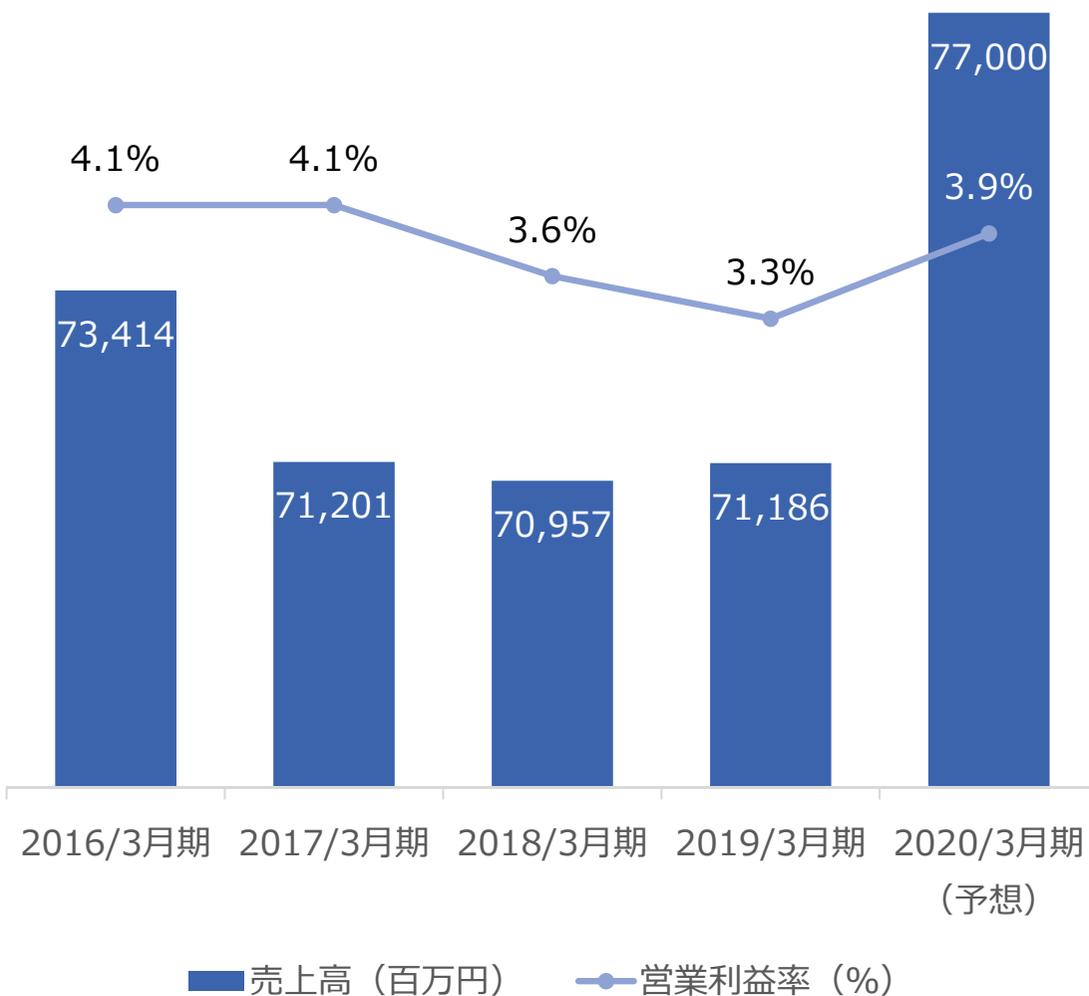
(単位：百万円)

項目	2019/3月期 実績	2020/3月期 業績予想	増減	増減率
売上高	71,186	77,000	5,813	8.2%
営業利益	2,355	3,000	644	27.3%
営業利益率	3.3%	3.9%	—	0.6%
経常利益	2,144	2,900	755	35.3%
当期純利益 ※	1,488	1,900	411	27.6%
配当金 (円)	普通配当 45 記念配当 20	普通配当 48	実質3円 の増配	—

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

連結業績推移

売上高及び営業利益率

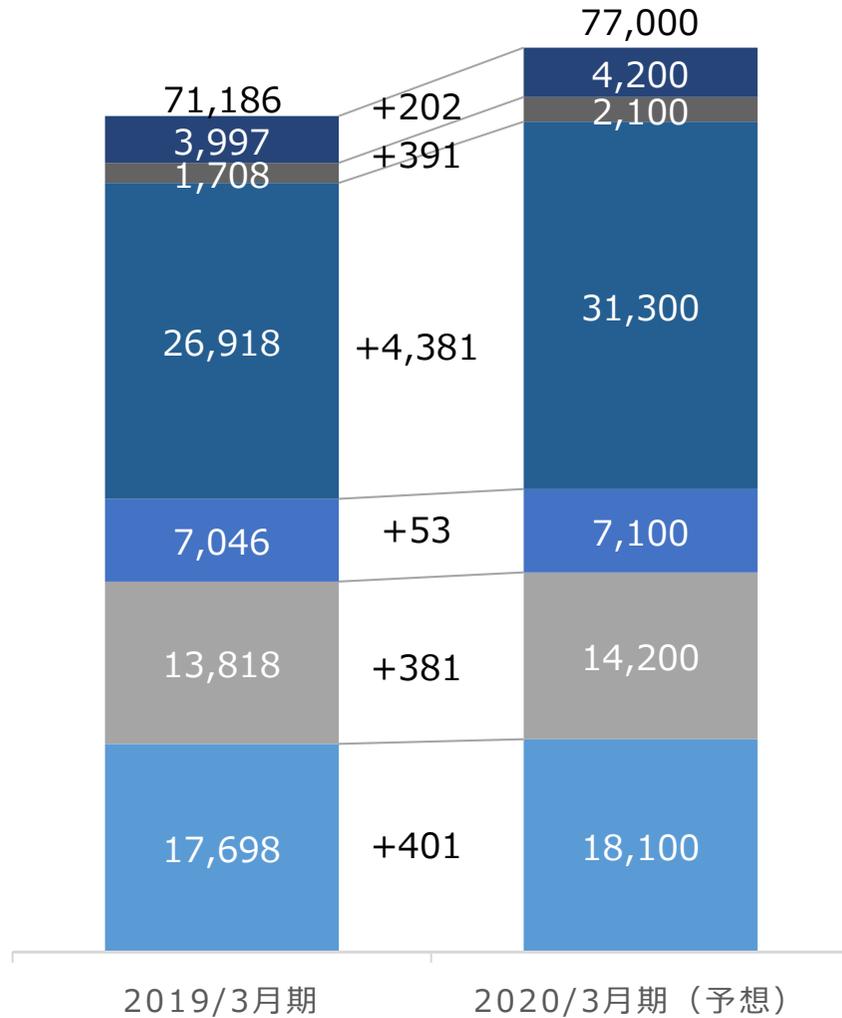


営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

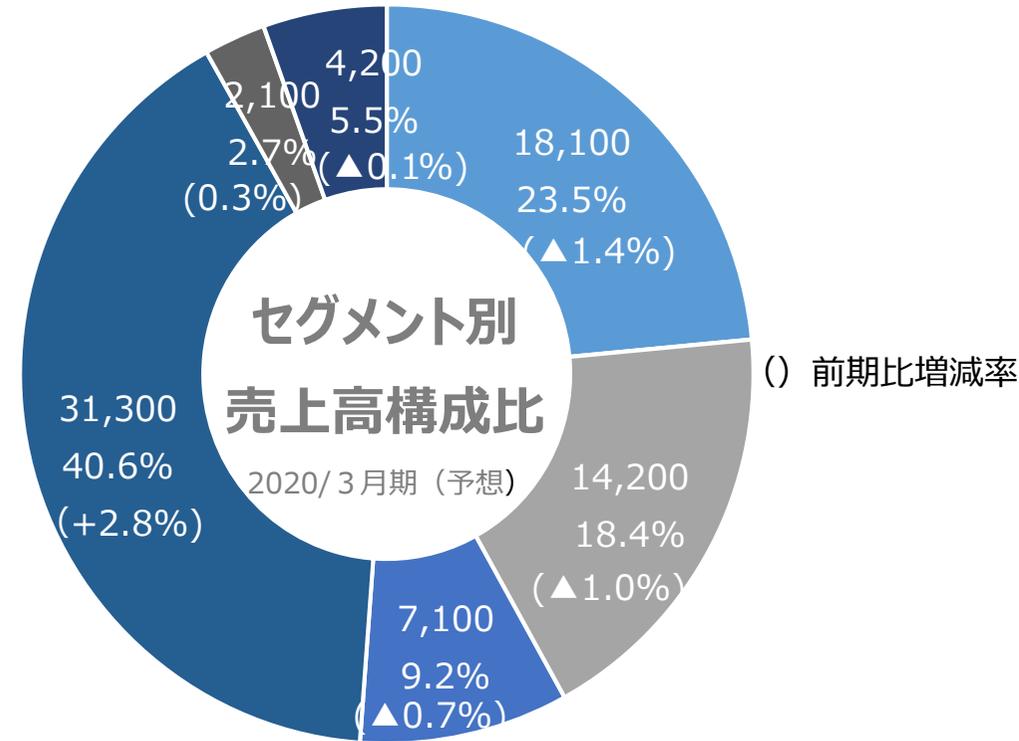


セグメント別売上高

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



本資料についての留意事項

- 本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。